

ロシア為替週報

2023年7月10日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(7月1日～7月7日)

USD/RUB: 88.2550～93.7452

先週1週間のロシア・ルーブルは大幅に続落。7月6日には対ドル93.74まで下落が進んだ。ワグネルによる武装蜂起のニュースが市場に及ぼす前の6月23日金曜日の終値は対ドル84.7だったが、そこから約10%もの下落となる。

ロシア中央銀行(CBR)のナビウリナ総裁は、ルーブルの下落について7月6日の会議で発言している。まず、同総裁は政府が意図的にルーブル安を誘導しているのではないかと、という見方を否定している。ルーブル安となったほうが自国通貨建てで見た輸出額が嵩上げされ、ひいては税収が増えることにつながることを意識しての発言と見られる。そのうえで、ナビウリナ総裁はルーブル安の背景として、経常黒字の縮小や、財政赤字の拡大といった要因を挙げ、CBRとしては変動相場を尊重する立場からルーブル安抑制のための為替介入を行う可能性を否定している。そして、金融政策の決定においては、通貨安に伴う輸入物価の上昇がインフレにもたらす影響を考慮する、とした。7月21日に控える次回金融政策決定会合での利上げ開始は規定路線となっているように思われる。従来は25bpの利上げを実施し、スローペースで金利を引き上げると見ていたが、50bp以上の大幅利上げの可能性も出てきた。

なお、ルーブル安の背景については、ナビウリナ総裁が指摘した要因以外にも理由があるように見ている。手がかりとして挙げられるのは、ロシア国内の外為市場で人民元の6月の取引シェアが41.5%と、米ドル(34.4%)やユーロ(17.6%)を上回り最も取引される通貨となっている、というニュースである。こうした人民元の取引シェアの拡大は、もちろん欧米からの金融制裁が影響しているが、実需だけではなく、資産の保全を目的とする外貨買いという色彩も強まっているのではないかと見られる。ロシア国内では人民元の取引は自由に行え、中国企業の社債も購入可能な模様である。また、ロシアの輸出企業が稼いだ外貨を国内に還流させずに国外に滞留させる動きを指摘する向きもあり(中国のほか、中央アジアでロシアマネーが増えているという見方がある)、これらの動きがルーブルの重石となっている可能性があるだろう。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
7/3	07:00	製造業PMI	6月		52.6	53.5
7/5	07:00	サービス業PMI	6月		56.8	54.3
	17:00	実質GDP(前年比%)	Q1		-1.8%	-1.8%
7/6	14:00	外貨準備高	6/30		\$582.4b	\$586.9b

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう2週間の見通し>

(7月8日～7月21日)

USD/RUB: 86.00～96.00

向こう2週間のルーブル相場は、引き続き、不明な部分の多いワグネルの武装蜂起がウクライナ情勢やロシアの政治動向にどう影響を与えるのかを見極める必要があるだろう。内部での亀裂が露呈した今、ロシアがウクライナへの侵攻を継続するのかを疑問視する見方も目立つ。

中長期的なルーブル安方向への展開が続くという見方に変わりはない。経常収支や財政収支など通貨ファンダメンタルズの悪化が鮮明となっていることが最大の理由である。G7などが経済制裁として科しているロシア産原油の輸入価格の上限設定措置を考慮すれば、ロシア産原油が国際的な指標であるブレントと比較して割安な水準で取引されることは避けられず、原油収入のアップサイドも限定的となろう。また、上述した経路で人民元買いや、海外への資金流出が継続するようであれば、さらなるルーブルの重石となる。

アップサイドリスクとしては、ロシア中銀の追加利上げの可能性が挙げられるものの、金利収入を目的とする海外からの資金流入が見込めない以上、ルーブル安圧力を食い止めるには力不足であろう。

<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

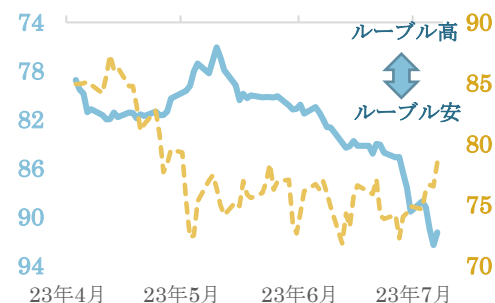
月日	GMT	指標	期間	予想*	実績	前回
7/12	17:00	CPI(前年比)	6月	3.3%		2.51%
7/20	14:00	外貨準備高	7/14			
7/21	11:30	政策金利発表				7.5%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

ロシア・ルーブルの推移

ルーブル対ドルレート(左軸、逆目盛)

ブレント先物価格(右軸)



原油価格の推移

実線:ウラル産原油価格

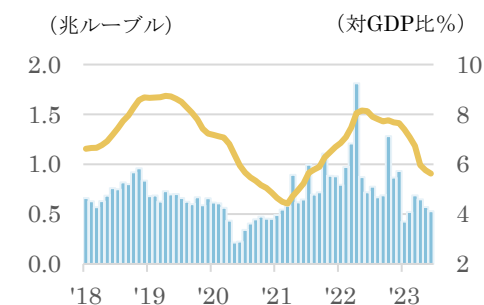
点線:ブレント先物価格(右軸)



石油・ガス収入

棒グラフ:金額(左軸)

折れ線:12か月累計値対GDP比(右軸)



(資料: ロシア統計局/ロシア中央銀行/ブルームバーグ)

<文責>

欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

masayuki.nakajima@mhcb.co.uk

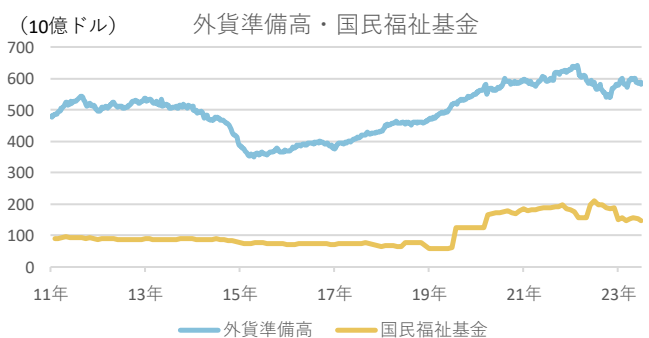
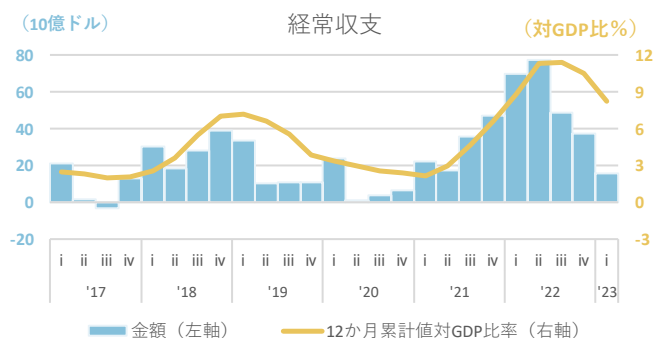
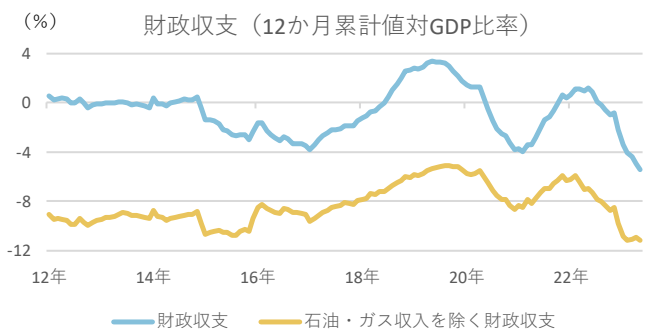
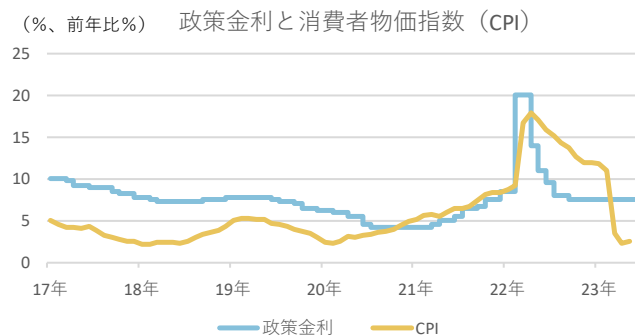
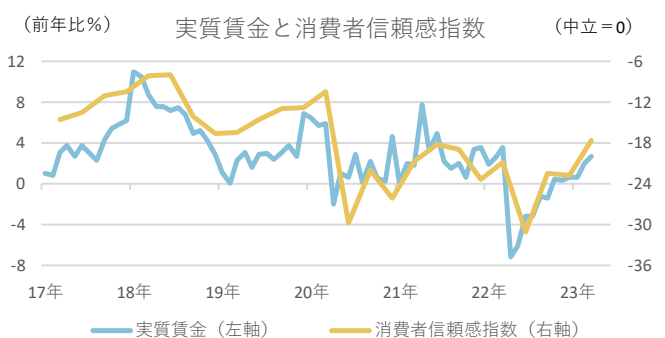
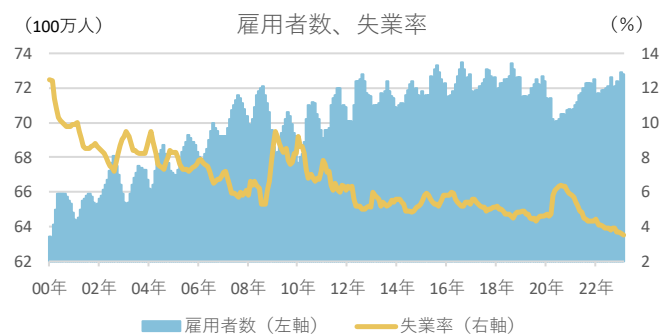
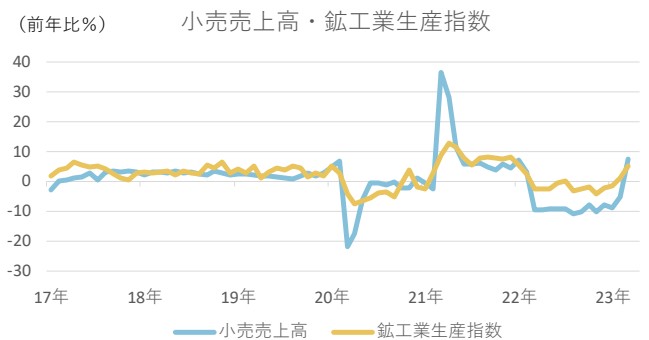
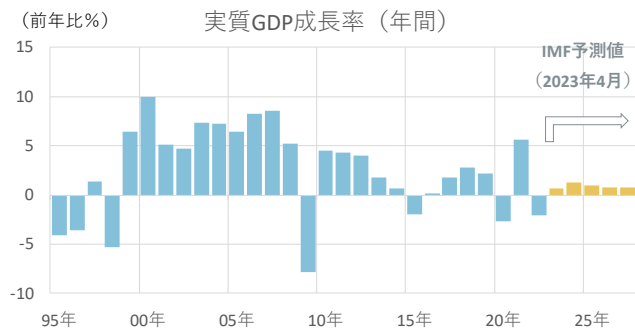
筆者出張のため、来週は休刊します。次回発行は7月24日の予定です。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

ロシア為替週報

2023年7月10日 | みずほ銀行欧州資金部

<主要経済指標の推移>



(資料 ロシア中央銀行/ロシア統計局/ロシア財務省/ブルームバーグ/みずほ銀行)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。